

## 鳥取市女性応援つながりサポート事業【鳥取市】

総事業費	604 千円
交付金額	450 千円

## 地域の実情と課題

鳥取市では令和3年度に市の公式lineアンケートによる「生理での悩みや困りごとについて」のアンケートの結果、長引く新型コロナウイルス感染症などの影響により、社会や人とのつながりが希薄になり、より不安を抱える女性が顕在化していることが明らかになった。

## 事業の特徴

生理に関する講演会やワークショップを開催した。また、それぞれのイベントにおいて、講師や参加者同士で自由に話せる場の提供を行った。なお、講演やワークショップでの内容やアンケート結果をもとに小冊子を作成し、配布を行うことで事業終了後も活動の周知を行なえるようにした。

## 事業の効果

講演、ワークショップに参加していただいた方からのアンケート結果では、78.1%の方から「次回も参加したい」との回答を得られ、一定の成果は得られた。

なお、次回の希望する事業について、体だけではなく「こころ」の健康に関するイベントの希望が複数あったため、次年度の取り組みの参考としたい。

## 目的・目標

全体の参加率は、82.8%（数値目標：定員の70%）

- ・2回の講座（定員計60名）に対し、参加者39名
- ・延べ9回のワークショップ（定員計56名）に対し、参加者56名

全体の満足度は、78.1%（数値目標：参加者の70%）

- ・2回の講座（参加者計39名）に対し、満足と回答した方33名
- ・延べ9回のワークショップ（参加者計56名）に対し、満足と回答した方42名

## 連携団体

鳥取市保健所と連携し、3月の女性の健康週間に合わせ、男女共同参画センターにおいて保健師や管理栄養士による講演や健康測定、女子の健康パネル展、健康相談を実施。

また、連携中枢都市圏（因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏）や県男女共同参画センターに事業の内容をまとめた小冊子を配布。

## 今後の課題

事業の周知について、HPにより知った方は1%にすぎなかった。今後、事業の周知方法は、アンケート結果を参考に実施する必要がある。

また、アンケート結果で要望のあった「専門的な相談」に対応するため、受託団体や関係機関と情報共有を図りながら、次年度に向けてより効果的な取り組みを検討する必要がある。

# 鳥取市女性応援つながりサポート事業 (令和4年度・鳥取市)

## 事業の経過及び背景

本市では令和3年度に生理に関する悩みや困りごとについて、アンケートを実施しました。(以下、複数回答による)  
 その結果、「仕事(学校)を遅刻・早退又は休暇を取得できない」19.2%、「人と会いたくない、話したくない」19.2%、「生理痛が辛い」50.0%、「PMS(月経前不快気分障害)」が辛い48.3%などの回答が寄せられ、辛く 悲しい思いをした経験などの意見が寄せられました。また、相談先について、「相談できる人がいない」10.2%、「相談する必要がない」16.1%の回答がありました。なお、「生理についての知識を学んだり、意見交換するような場があったらいいと思いますか」との問いには69.9%の女性が「思う」、「あったら参加してみたい」と回答しており、長引く新型コロナウイルス感染症などの影響により、社会や人とのつながりが希薄 になり、より不安を抱える女性が顕在化していることが明らかになりました

## 事業の概要

12月4日と1月22日にそれぞれ講演会、ワークショップを開催しました。講演会終了後、講師を交えて小グループをつくりそれぞれの悩みや心配事などについて話し合いを行いました。また、ワークショップでは布ナプキン作りや薬膳スープ作り、ヨガなどを行いながら、講師を囲んで話を交わしました。事業終了後の参加者アンケートでは、全体の78.1パーセントの方から「また参加したい」との回答を得ました。また、事業内容と参加者の声を小冊子にまとめ、県・市男女共同参画センターや中枢都市圏域の構成自治体に配布し、多くの方に事業内容を紹介しました。

## 事業の周知について

## 第1回(12/4)、第2回(1/22)開催の様子



## 小冊子の配布



「鳥取市女性応援つながりサポート事業」の案内チラシです。このほかにも、ホームページやSNSでの紹介、新聞への事業開催の記事の掲載やコミュニティラジオへ出演し参加を呼び掛けるなど、様々な媒体を利用して広報を行いました。

↑講演会、ワークショップの様子。講演会終了後には、講師を交えた参加者同士のアフタートークを行いました。  
 →事業終了後に、事業内容と参加者のアンケートを小冊子にまとめ、関係機関に配布しました。